



二十四節気：清明（清浄明潔）…すべてのものが清らかで生き生きしている季節です。

## 校長通信『道標(みちしるべ)』 第14号

令和3年4月6日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



### 令和3年度 始業に当たって

昨年度は3月から5月末まで学校は臨時休業でした。始業式、入学式、体験学習、歓迎遠足、体育祭、各種検定試験など、生徒の皆さんの大切な輝く思い出づくりや進路実現に向けた取り組みなどが絶たれてしまいました。生徒の皆さんはもとより、先生方も大変心を痛めていました。令和3年度の始業はこのように、生徒の皆さんと共に、学校にて第1学期をスタートできることを大変嬉しく思います。

本校は昨年度60周年を迎えました。人であれば還暦（かんれき）を迎え、暦が一巡して次の60年への新たな旅立ちの年となります。若商は商業教育の「標」（しるべ）の構築をめざし次の70周年、100周年、そして120周年の大還暦（だいかんれき）に向け、誇り高く新たなる大航海へ船出します。生徒のみなさんも本校のスクールカラー真紅（しんく）のごとく、真っ赤な情熱と高い志をもって、将来の目標に向け全力で漕（こ）ぎ出しましょう。

さて、令和三年度の始業に当たり、昨年同様に「こころに目指すもの」つまり「志（こころざし）」について伝えたいと思います。

「志を立てて、もって万事の源となす」これは幕末の教育者である吉田松陰（よしだ しょういん）先生が親類の成人を祝して贈った言葉です。この言葉を本校の教育目標の礎（いしづえ）としました。志を立てること。将来の目的を定めて、これを成し遂げようとする。立志（りっし）といます。

学習、進路実現、部活動等、どれも明確な目標を立てることから始まります。大切なことは短期的でもよいから目標を持つことです。例えば検定試験を例に挙げましょう。「六月は珠算・電卓実務検定と簿記実務検定を取得するぞ。九月は英語検定に挑戦するぞ」、部活動では大会での実績や記録への挑戦です。そのために今何をやらなければならないのかを自ら考え、そして実践する。

「志」に近づく努力を継続することで、人として大切な「自信と誇り」が生まれます。失敗しても教訓が残ります。この経験を繰り返すことにより、たくましい魂が育まれます。そして、これらの経験は人生において永遠の宝物となります。「たのもしい大人」に近づきます。

— 令和3年度 第1学期 始業式 校長式辞から —

### ようこそ若商へ1 - 新生を迎える準備ができました -

明日（4月7日）は、第62回入学式です。在校生の皆さん、新生を迎える準備への協力、本当にありがとうございました。また「書道同好会」や「写真同好会」は3月から作業を行い校門前の掲示板への揮毫や展示を準備しました。

「標を築け、若商健児」

「若松を見つめ、若松を動かす」

新生の皆さん、御入学おめでとうございます、在校生の皆さん「あたたかい心」で新生を迎えましょう。



### ようこそ若商へ2 - 歓迎遠足について -

4月16日（金）に「歓迎遠足」を実施します。全校生徒で学校から徒歩にて響灘緑地グリーンパークに行きます。みんなで**若商かつぱ弁当**を食べます。そして、楽しい歓迎行事により、輝く思い出となるよう、生徒会の皆さんが準備を進めています。

響灘緑地グリーンパークは「水・緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマにした市内最大の公園です。地域にはこのような素晴らしい施設（観光資源）があります。若商生の皆さんの若く柔軟な発想で「**地域を見つめ、地域を動かす**」ことを考えてみましょう。

